

あらし

吹くからに秋の草木のしをるれば
むべ山風を嵐といふらむ (文屋康秀)

この和歌は、「山」と「風」を組み合わせると「嵐」になるという言葉あそびの和歌です。なぜ、このような趣向的な和歌が『百人一首』に選ばれたのか、昔から疑問でした。書店に並んでいる『百人一首』の入門書や受験参考書を調べてみると、山風や嵐を「暴風」と解説し、この和歌を「台風の激しい風で草木の枝葉が折れる」と解釈しているものがほとんどでした。気になって図書館の専門書コーナーで調べてみると、「木枯らしで草木が枯れる」と解釈しているものがありました。



「万葉集」に「窓越しに月おし照りてあしひきのあらし吹く夜は君をしぞ思ふ」の歌があり、「山」の枕詞の「あしひき」が「嵐」の枕詞としても使われていることなどから、アラは山の古語という説があります。この説によれば、シは風を意味する言葉(コガラシ・ツムジなど)ですから、アラシはまさに山風になります。また、大蛇をオロチ(山の霊)と呼ぶように、オロも山の古語で、「六甲おろし」「赤城おろし」のオロシも、もとは山風という説もあります。気象の知識が

ない昔の人たちは、風が吹く原因が分からず、風の強弱や風向で風の種類を呼び分けていたのではないのでしょうか。山の方向から吹く風や山中で吹いている風は、みな「山風」と呼んでいたと思います。

「嵐」について、『広辞苑』に「荒く激しく吹く風。もとは山間に吹く風をいうことが多く、のち一般に暴風、烈風をいう」とあるように、昔は暴風だけではなく、木々をゆらす程度の風も嵐と呼んでいました。『百人一首』には、嵐の入った和歌が、他に2首あります。

嵐吹く三室の山のもみぢ葉は
龍田の川の錦なりけり(能因法師)

花さそふ嵐の庭の雪ならで
ふりゆくものはわが身なりけり(藤原公経)

能因法師の嵐は「晩秋の季節風」、藤原公経の嵐は「花散らしの春風」です。和歌の感じからは、強い風というよりも、強めの風といった印象です。

『広辞苑』の編者の新村出も文屋康秀の和歌の解釈に疑問を抱いていたらしく、著書『語源をさぐる』で「むべ山風を嵐、といったその嵐は、暴風立ちの風ではなくて、一陣の風で木葉を散らす程度の、木枯の風の程度のものと考えれば、大した相違はないと思ふ。」との意見を述べています。

この文屋康秀の和歌、もともとは「秋の草木のしをるれば」ではなく「野辺の草木のしをるれば」で、『古今集』に選ばれた時に現在の姿になりました。「野辺」では季節感が薄れてしまいますので、「秋」に変えたと思われます。「冬の訪れを告げる冷たい季節風が吹き始めると、草木が枯れ、野や里が荒れる」と、晩秋から初冬のころの情景と解すれば、「見わたせば花も紅葉もなかりけり…」にも似た、なかなか味わい深い和歌になり、『百人一首』に選ばれたのも分かるような気がします。



気象予報士
株式会社富士ピー・エス顧問
松嶋 憲昭
著書
「桶狭間は晴れ、のち豪雨でしょう」
メディアファクトリー新書

私は現在、ベトナム社会主義共和国の首都ハノイ市を流れる紅(ホン)河を跨ぎ、市内と空港を結ぶ全区間8.5kmのニヤタン橋建設プロジェクトの主要部分である、パッケージ1工区の橋梁上部工事に携わっています。パッケージ1工区は全長3080mあり、メイン橋と2つのアプローチ橋で構成されています。メイン橋は世界的にも珍しい6径間連続合成斜張橋(1500m)であり、アプローチ橋はベトナムでは一般的なSuper-T桁と呼ばれるプレテンション桁から成る、11径間+10径間+10径間連続PC箱桁(1240m)及び、7径間連続PC箱桁(340m)となっています。

設計施工全般を担当しています。コンクリート打設はもちろんのこと、PCの緊張管理等を行っています。ハノイでは夏場、外気温が40度以上となりコンクリートの品質を維持するため、コンクリート打設が夜間に行われます。そのため、作業時間も長くなっています。そう聞くと、作業員の健康状態が心配とお思いになるかもしれませんが、当現場はもちろんのこと、他の現場でも熱中症や過労で倒れたという話はほとんど聞きません。これは、ベトナムがフランスに統治されていた時代の名残から「昼寝」をする習慣があるためだと思えます。当現場では作業員の昼休みが冬場で2時間、夏場は4時間もありません。反対に冬場は以外に寒く、10度以下になることもあります。10度程度ではたいしたことはないと感じられる方も多いと思いますが、日本と比べ湿度が高いためか日本の冬と同じくらいの寒さを感じます。ちなみに10度を下回ると、小学校が休みに、7度では中学校も休みに なります。休みということで皆様もお正月は、ご家族とともにゆっくりとお過ごしになられたかと思いますが、ベトナムでお正月といいますが、「テト」と呼ばれる旧正月がメインとなります。今年1月31日が元日にあたります。ベトナム人は家族をとっても大切に



ハノイ市内
メイン橋梁(P.16より起点側)

するため、多くの作業員たちがお正月を家族と過ごすために帰省します。このテト休暇は1週間くらいなのですが、ベトナムでは大型連休がこのテトしかなく、田舎から出稼ぎに来ている作業員たちは一度帰ってしまおうとなかなか現場に戻ってきません。通常は2週間くらいで戻ってくるのですが、3週間以上たっても戻ってこなかったり、なかには1か月以上も戻ってこない作業員もいます。多くのベトナム人が家族と過ごすため、この時期は街中のお店が閉まってしまい、我々、外国人滞在者や旅行者には暮らしにくい時期でもあります。そのため、テト休暇中は私たちも日本に帰省するか、近隣諸国で過ごします。



空港
アプローチ橋(Super-T桁橋+PC箱桁 / P.16より終点側)

ニヤタン橋は別名、日越友好橋と呼ばれています。折しも、2013年は日本ベトナム友好年(日本ベトナム外交関係樹立40周年)に当たり、さまざまなイベントがベトナム各地で催され、日本のことが紹介されていました。また、日本でもベトナム人サッカー選手が初めて日本のJリーグに入団するなど、ベトナムのことがもつと知られるようになってきているかと思えます。このベトナムと日本のよい関係が続くことを願い、このニヤタン橋が日本とベトナムの友好のシンボルとなるよう2014年末の完工に向けて引き続き、鋭意努力していきたいと思っています。



株式会社IHIインフラ建設
PC事業部PC工事部
木村 俊紀

Episode 3
ベトナムハノイにて